留学 出発前ガイド

万一への備え ― **海外旅行保険** のご案内

留学中は、体調不良やケガ、盗難、フライトの遅延・欠航など、日本にいるときとは違うトラブルが起こりえます。とくに海外の医療費は高額になりやすく、入院や搬送が必要になった場合は数百万円規模の負担が生じることもあります。海外旅行保険（留学保険）は、こうした「起きる確率は低いが、起きたときの金額が大きい」リスクに備えるためのものです。本ガイドでは、補償の中身と選び方の考え方を一般的な情報としてご案内します。

海外旅行保険が必要な理由

海外の医療費は高額

日本の公的医療保険は原則そのまま使えません。渡航先によっては、診察・入院・搬送で想定外の高額請求となる場合があります。

日本語サポートが使える

多くの保険会社が24時間の日本語アシスタンスを用意。病院の紹介・予約から現地対応まで相談できます。

立替払いを避けられる

提携病院ではキャッシュレスで受診できる場合があり、その場での自己負担や後日の請求手続きを避けられます。

主な補償内容（一般的な項目）

補償項目	どんなときに使うか	見るべきポイント
治療・救援費用	現地でのケガ・病気の治療費、入院費、日本からのご家族の駆けつけ費用など。**保険の中核となる補償**です。	金額が十分か。無制限にできる商品もあります。
賠償責任	他人にケガをさせた、ホテルや学校の備品を壊した、といった法律上の賠償を負ったとき。	ホームステイ・寮生活では出番があり得ます。
携行品損害	スマホ・PC・カメラなどの盗難や破損。	1品あたりの上限額（10万円等）に注意。
航空機遅延・欠航	乗継便の遅延で発生した宿泊費・食事代など。	乗継のある渡航では有用です。
死亡・後遺障害	事故によるもの（傷害）と、病気によるもの（疾病）で扱いが分かれます。	疾病死亡が付いているかを確認。

ご加入までの流れ

1. **条件を確認**
   渡航先・滞在期間、学校やビザで保険加入が求められていないかを確認します。
2. **補償額を決める**
   治療・救援費用を軸に、必要な補償項目と金額を選びます。
3. **申し込み**
   各社のサイト等で、出発日までに申し込みを済ませます。
4. **書類を携行**
   保険証券・付保証明書・緊急連絡先を、スマホと紙の両方で持参します。

クレジットカード付帯保険との違い

まず確認したい点

カード付帯保険

「補助」として考えるのが安全

一般に治療費用の限度額は数百万円までのものが多く、保険期間も「出国から最長90日」といった上限が設けられているのが一般的です。また、旅費をそのカードで支払った場合のみ有効となる「利用付帯」の商品もあります。

ご利用予定の方へ　出発前に必ずカード会社へ適用条件（自動付帯／利用付帯、補償期間、限度額）をご確認ください。あわせて、**英文の保険証券（English Certificate of Insurance）**を発行してもらっておくと、現地の病院で提示でき安心です。

留学の基本形

海外旅行保険（留学保険）

滞在期間に合わせて設計できる

滞在日数に合わせて期間を設定でき、治療・救援費用の金額も選べます。キャッシュレス診療や日本語アシスタンスの利用範囲も明確です。カード付帯と併用し、不足分を補う形も可能です。

現地での受診 — ジャパニーズヘルプデスク

フィリピン・アジア数カ国

日本語で受診できる窓口

通院・入院ともキャッシュレス対応

フィリピンをはじめアジアの数カ国の主要病院には「ジャパニーズヘルプデスク」が設置されており、**日本語で診察のサポート**を受けられます。大手の海外旅行保険にご加入であれば、**通院・入院ともにキャッシュレス**でのご利用が可能です。英語での症状説明に不安がある方も、安心して受診いただけます。

ご加入時のご確認を　対応保険会社は下記の記事等で確認できますが、内容は変わりうるため、念のためご加入時に保険会社へ**「セブの病院でキャッシュレス対応が可能か」**を直接ご確認ください。

参考リンク

▶ ご利用の流れ（海外旅行保険）
j-helpdesk.jp/service-use-flow-for-travel-insurance

▶ フィリピンの対応病院リスト
j-helpdesk.jp/philippines-hospital-list

▶ 対応保険会社について（参考記事）
cebutrip.net/local/view/japanese-helpdesk

ご加入前のご確認ポイント

- **出発前に加入する**　海外旅行保険は、日本を出発する前に加入手続きを終えておく必要があるのが一般的です。出国後は原則として加入できません。
- **滞在期間をカバーしているか**　保険期間は「日本を出発してから帰国するまで」が対象です。前後の旅行や一時帰国の予定がある場合は、期間の設定にご注意ください。
- **持病・既往症の扱い**　既往症や妊娠に関連する治療は、補償の対象外とされていることが多い項目です。該当する場合は、申し込み前に各社へご確認ください。
- **キャッシュレス提携病院の有無**　渡航先にキャッシュレス対応の提携病院があるかどうかで、いざというときの手間が大きく変わります。保険会社ごとに提携先は異なります。
- **学校・ビザの要件**　学校や滞在国のビザ手続きで、一定の補償内容や付保証明書の提出が求められる場合があります。要件は渡航先・学校により異なりますので、担当までご確認ください。
- **未成年の方のお申し込み**　未成年の方はご自身が契約者になれない商品が多く、その場合は**親権者の方が契約者、ご本人が被保険者**となる形でのお申し込みとなります。また、出発時に満15歳未満の場合は死亡保険金額に上限が設けられるなど、条件が異なる商品もあります。年齢の取り扱いは保険会社により異なりますので、事前にご確認ください。
- **免責事項の確認**　バイクの運転、危険なスポーツ、飲酒に起因する事故などは、補償の対象外となる場合があります。約款の免責事項に一度目を通しておくと安心です。

迷ったときは？　まずは**「治療・救援費用が十分か」**を基準にお考えください。他の補償は、そのうえで必要に応じて足していくのが分かりやすい選び方です。ご滞在期間・渡航先・現在お持ちのクレジットカード付帯保険の内容をお知らせいただければ、担当より一般的な考え方をご案内します。お気軽にご相談ください。

※本資料は一般的な情報提供を目的としたものであり、特定の保険商品の推奨・募集を行うものではありません。補償内容・保険料・引受条件は保険会社および商品により異なり、実際の補償は各保険会社の約款が優先されます。ご加入にあたっては、必ず各保険会社の公式情報および約款をご確認ください。当社は保険募集を行う立場にはありません。